

## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成26年2月6日

上場会社名 株式会社ジオディノス 上場取引所 東  
 コード番号 4650 URL http://www.geodinos.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 光安 浩二  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 吉住 実 TEL 011-241-3951  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

百万円未満切捨て

### 1. 平成26年3月期第3四半期の業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）

#### （1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
26年3月期第3四半期	6,142	△0.1	134	124.1	24	—	△349	—
25年3月期第3四半期	6,151	0.1	60	△4.0	△60	—	△95	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△82.41	—
25年3月期第3四半期	△22.41	—

#### （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
26年3月期第3四半期	10,068	2,028	20.1	476.68
25年3月期	10,417	2,376	22.8	556.88

（参考）自己資本 26年3月期第3四半期 2,023百万円 25年3月期 2,371百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成26年3月期の業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	8,400	0.3	300	32.6	140	124.0	△210	—	△49.46

（注）直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期3Q	4,303,500株	25年3月期	4,303,500株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	59,494株	25年3月期	45,094株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期3Q	4,246,258株	25年3月期3Q	4,258,406株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、輸出の持ち直しや各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、緩やかな景気回復がみられる一方で、電気料金の値上げ、原材料価格の上昇など、国内景気は依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社の経営の基本方針である『人々に《楽しむ》を提供し、明日の幸せをお届けします。』の経営理念のもと、一層の経営の効率化を図り、収益力の強化に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間の売上高は61億42百万円（前年同四半期比0.1%減）、営業利益は1億34百万円（前年同四半期比124.1%増）、経常利益は24百万円（前年同四半期は経常損失60百万円）となり、四半期純損失は減損損失3億52百万円を計上したことにより、3億49百万円（前年同四半期は四半期純損失95百万円）となりました。

当第3四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	前年同四半期比 (%)
GAME運営部 (千円)	2,372,568	△0.2
フィットネス運営部 (千円)	1,791,554	2.2
ボウリング運営部 (千円)	866,150	△1.8
カフェ運営部 (千円)	384,098	△4.9
ディノス施設運営部 (千円)	728,409	△0.8
(シネマ) (千円)	(561,970)	(△2.0)
(その他) (千円)	(166,438)	(3.4)
合計 (千円)	6,142,781	△0.1

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

- 第1四半期会計期間の組織変更に伴い、カフェ運営部の1店舗をボウリング運営部に変更しております。前年同四半期比については、当該組織変更を反映した前年同四半期の数値を用いております。
- ディノス施設運営部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。
- ディノス施設運営部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

#### (GAME運営部)

GAME運営部につきましては、UFOキャッチャーに代表されるプライズ機の景品を取れやすくすること（原価率重視からペイアウト率重視へ転換）等の施策が効果を上げ始めたこと、太鼓の達人をはじめとする音楽ゲームが好調に推移しましたが、「ゲオパークじょいくるーず店」の閉店（平成24年11月）、「ゲオパーク八街店」及び「リトルパーク」の一部を効率を重視し、グループ会社に移管（平成25年10月よりゲーム機のレンタル開始）したことなどにより、売上高は23億72百万円（前年同四半期比0.2%減）となりました。

#### (フィットネス運営部)

フィットネス運営部につきましては、健康意識の高まりにより、利用者及び会員数が増えたこと、加圧トレーニング導入効果など会費以外の収入が増えたこと、女性専用の「ホットヨガスタジオ ハーティノルベサ（札幌市）」がオープン（平成25年1月）し、店舗数が増えたことなどにより、売上高は17億91百万円（同2.2%増）となりました。

#### (ボウリング運営部)

ボウリング運営部につきましては、健康増進レジャーとして、ボウリング教室等をシニア層向けに開催したり、プロショップ「ベガ」（ボウリング用品専門店）を3店舗にオープンし、物販収入が増えましたが、夜間を中心とした一般客の来場者数が減少したことなどにより、売上高は8億66百万円（同1.8%減）となりました。

#### (カフェ運営部)

カフェ運営部につきましては、割引クーポンの発行やシニア割引、また飲食のテイクアウト等施策を実施し、下げ止まりのきざしはようやく見えはじめましたが、不採算店舗であった「ゲオカフェ秋田東通店」（平成25年11月）及び「ゲオカフェー宮音羽店」（平成25年12月）の閉店による影響などにより、売上高は3億84百万円（同4.9%減）となりました。

(ディノス施設運営部)

ディノス施設運営部につきましては、「シネマ」において、「モンスターズ・ユニバーシティ」、「風立ちぬ」などのヒット作やODS（非映画デジタルコンテンツ）の上映作品が増え堅調に推移しましたが、前第3四半期に上映した「エヴァンゲリオン新劇場版：Q」及び「ONE PIECE FILM Z」の大ヒットがあったことなどにより、売上高は5億61百万円（同2.0%減）となりました。「その他」においては、前事業年度に1店舗を飲食店として他社への賃貸物件を増やし（平成24年12月）、不動産賃貸収入が増加したことなどにより、売上高は1億66百万円（同3.4%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期会計期間末の総資産は100億68百万円となり、前事業年度末に比べ3億48百万円減少しました。これは主に、現金及び預金等流動資産の増加（前期末比2億84百万円増）がありましたが、建物等有形固定資産の減少（同6億22百万円減）があったことによるものであります。

負債については、80億39百万円となり、前事業年度末とほぼ同額になりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金等流動負債の減少（同39百万円減）がありましたが、社債等固定負債の増加（同39百万円増）があったことによるものであります。

純資産については、20億28百万円となり、前事業年度末に比べ3億48百万円減少しました。これは主に、利益剰余金の減少（同3億54百万円減）があったことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成25年11月7日付「特別損失の計上及び第2四半期業績予想と実績値との差異、通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」にて発表した業績予想に変更はございません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	799,205	1,058,663
売掛金	150,949	141,014
商品及び製品	28,003	45,956
原材料及び貯蔵品	79,703	102,034
その他	140,765	134,973
貸倒引当金	△1,010	△800
流動資産合計	1,197,616	1,481,843
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,818,124	3,359,669
アミューズメント機器(純額)	411,879	363,589
土地	2,699,860	2,680,490
リース資産(純額)	553,177	501,039
その他(純額)	205,333	161,274
有形固定資産合計	7,688,376	7,066,063
無形固定資産		
投資その他の資産	26,374	24,793
差入保証金	1,187,285	1,179,787
その他	289,368	260,819
投資その他の資産合計	1,476,654	1,440,606
固定資産合計	9,191,406	8,531,463
繰延資産	28,113	54,937
資産合計	10,417,135	10,068,245
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	176,930	211,615
短期借入金	130,000	50,000
1年内償還予定の社債	330,000	582,800
1年内返済予定の長期借入金	1,207,328	1,015,714
1年内返済予定の長期未払金	359,896	310,897
未払法人税等	35,631	28,517
賞与引当金	31,229	15,270
ポイント引当金	7,600	7,500
その他	922,203	938,758
流動負債合計	3,200,818	3,161,074
固定負債		
社債	1,032,000	1,973,800
長期借入金	2,459,515	1,856,051
長期未払金	668,573	459,725
資産除去債務	142,162	140,108
その他	537,334	449,138
固定負債合計	4,839,585	4,878,824
負債合計	8,040,404	8,039,898

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	313,651	△40,539
自己株式	△20,987	△26,805
株主資本合計	2,370,434	2,010,425
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	989	12,613
評価・換算差額等合計	989	12,613
新株予約権	5,307	5,307
純資産合計	2,376,731	2,028,346
負債純資産合計	10,417,135	10,068,245

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	6,151,908	6,142,781
売上原価	1,329,412	1,353,950
売上総利益	4,822,495	4,788,830
販売費及び一般管理費		
給料	1,196,707	1,162,737
賞与引当金繰入額	15,744	15,270
退職給付費用	16,217	16,101
水道光熱費	508,216	503,829
租税公課	52,576	57,948
地代家賃	904,438	898,462
減価償却費	613,069	570,199
修繕維持費	300,118	312,669
その他	1,155,214	1,116,701
販売費及び一般管理費合計	4,762,303	4,653,922
営業利益	60,192	134,908
営業外収益		
受取利息	2,588	2,300
受取配当金	1,885	969
アミューズメント機器売却益	2,697	4,369
受取保険金	4,090	7,223
その他	2,393	4,716
営業外収益合計	13,654	19,578
営業外費用		
支払利息	96,311	78,164
アミューズメント機器処分損	8,163	13,864
その他	30,126	38,117
営業外費用合計	134,601	130,145
経常利益又は経常損失(△)	△60,754	24,341
特別利益		
固定資産売却益	371	973
投資有価証券売却益	7,627	1,229
補助金収入	2,135	—
違約金収入	—	4,340
移転補償金	—	1,597
特別利益合計	10,134	8,140
特別損失		
固定資産売却損	154	134
固定資産除却損	2,729	6,732
減損損失	—	352,154
アドバイザー関連費用	—	16,552
特別損失合計	2,884	375,574
税引前四半期純損失(△)	△53,504	△343,092
法人税、住民税及び事業税	24,199	22,890
法人税等調整額	17,735	△16,049
法人税等合計	41,934	6,840
四半期純損失(△)	△95,439	△349,933

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。